



1. 始めに

松田, 毅

(Citation)

住民参加による被災地のアスベスト飛散調査への参加・協力 : 調査報告書:2-3

(Issue Date)

2013-03

(Resource Type)

research report

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81009562>



1. 始めに

人文学研究科 教授 松田 毅

今回の調査、「住民参加による被災地のアスベスト飛散調査への参加・協力」は、平成 24 年度東北大学等との連携による震災復興支援・災害科学研究推進活動サポート経費によるものである。代表は人文学研究科の松田毅である。

この調査は、2012 年度前期 ESD 演習 I、倫理創成論演習、倫理創成論発展演習の一環として行われた。受講した学生・大学院生は以下の通りであった。

金平麻友子（社会学専修）、亀谷由太（社会学専修）、藤原翔一（心理学専修）、松原広実（哲学専修）、吉田真帆（社会学専修）、杠英美子（社会学専修）、芳村雅世（社会学専修）、奥野大貴（前期課程哲学研究分野）、勝部尚樹（前期課程哲学研究分野）、メリマ・ドゥラコヴィッチ（前期課程倫理学研究分野）、劉婷（前期課程哲学研究分野）、奥堀亜紀子（後期課程哲学研究分野）、土屋邦子（後期課程ヨーロッパ文学研究分野）、王飛（後期課程芸術学研究分野）、本林良章（後期課程哲学研究分野）。

この報告書には、主として平成 24 年の 6 月 23 日と 24 日両日に行った、調査の概要と調査とその結果に関する各参加者のレポートを掲載することにした。後述するように、その報告内容は、参加者の背景や学問的関心が多様なこともあり、被災地のアスベスト飛散調査に限定されるものではない。しかし、その反面で、結果として学生や大学院生それぞれの視点から見た、「震災復興支援」と「災害科学」への寄与になっていると思う。

代表者の松田は、環境リスク論の重要な問題のひとつとして、数年来、阪神地区を中心としたアスベストによる健康被害の問題を教育研究の場で取り上げてきた。特に、上記の ESD 演習、倫理創成論演習などでは、この問題について、いわゆる「質的研究」の観点から取り組んでいる。幸い今年度はこの「東北大学等との連携による震災復興支援・災害科学研究推進活動サポート経費」により、住民参加による被災地のアスベスト飛散調査を NPO の協力のもとで実施することができたことは、教育上の大きな挑戦であった。

そもそも、この問題が重要である理由は、1995 年の阪神大震災の後、当時、倒壊した建物の瓦礫処理の作業などを行うことにより、そのアスベスト曝露が原因で中皮腫を発症したと見られ、労災認定を受けた事例が近年報告されていることから、東日本大震災後も、被災地のアスベスト飛散の状況を把握し、対策を取ることにある。今回の調査は、この重要性を踏まえて、地元病院、行政、住民と協力して、すでに調査と啓発を行っている NPO の活動に学生・大学院生とともに参加することで、問題解決に少しでも貢献することを目指すものであった。

今回の¹調査のために、上記の関連授業は、概ね以下のような構成で行った。

事前学習としては、アスベスト問題に関する、必要な知識は書籍（倫理創成プロジェクトが京都精華大学と共同制作したマンガ『石の綿』のパイロット版を含む）、映像媒体（テレビの特集番組やニュース報道、倫理創成プロジェクトで制作したマスクプロジェクト²に関するプロモーションビデオなど）を通じて参加者に伝えた。また、年齢、性別、分野、これまでの問題への関わり（初心者か経験者か）を考慮して、できるだけ多様性のある3～4人のグループを作り、KJ法などのブレイン・ストーミングの手法を用いた、ワークショップを繰り返した。また、インタビューの準備の事前学習として、ロールプレイングも行った。このようなやりかたで、グループでの討議を促進し、共通認識や課題を設定できるようにした。

また、石巻での調査以外のアクションリサーチとフィールドワークでも現地訪問を行い、協力団体の力を借り、関係の当事者の方々とのインタビューを行った。この点は、若い人々には特に重要であると認識している。その後の事後学習として、やはりグループ討議を重視し、意見発表の機会を多く設けている。今回のレポートもこのような授業全体のリフレクションとなっている。

回	日程	授業内容
1	4/16	ガイダンス・グループ分け
2	4/23	事前学習1：アスベスト問題について
3	5/7	事前学習2：アスベスト問題について
4	5/14	アクションリサーチ： 「中皮腫・アスベスト疾患患者と家族の会」尼崎支部訪問
5	5/21	事後学習
6	5/28	事前学習（震災とアスベスト1）
7	6/4	事前学習（インタビューの方法について）
8	6/11	震災時アスベスト曝露による中皮腫患者へのインタビュー（芦屋で実施）
9	6/18	事前学習（石巻の震災被害の確認）
10	6/23, 24	石巻市での調査実施
11	6/30	アクションリサーチ（アスベスト被害の救済と根絶をめざす尼崎集会にて）
12	7/2	事後学習（石巻市調査について）
13	7/9	記録の整理と発表準備
14	7/23	グループワークの報告会と総括議論

¹その後、『石の綿 マンガで読むアスベスト問題』（かもがわ出版）は平成24年7月に公刊された。

²「マスクプロジェクト」は震災時のアスベスト飛散から身を守るための防塵マスクの普及活動を通してリスクコミュニケーションを行う市民運動。このプロジェクトは、大島英利著『アスベスト 広がる被害』岩波新書199頁でも紹介されている。